

# 本を選ぶ

## 高校図書館版

NO.14 1992年(平成4年)11月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

本社 千162 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン517 TEL.03-3235-6168

ぶっく・えんど

### ひしめく天才

自分が高校生だった頃を思い出そうとすると、先ず見えてくるのは、それが中学時代と大学時代にはさまれた時期としてである。何を当たり前と言われるかもしれないが、この3つの時間層があまりにも色鮮やかに分かれているので、学校制度なんかの外的要因にゆだねたくはないと思いつつ、どうしてもその上下層との対比のなかで高校時代の記憶を定着させている。

つまり、中学生のときはずっと級長でティーチャーズペット、数学が得意で将来は生物学に進むつもりでいた。ところが高校に入った途端、数学はからきし駄目になり、現代詩にとりつかれ、授業をサボっては空いた教室で同人誌のガリ版刷りに追われ、試験日に封切られたディズニーの「ピノキオ」を見に行っていた。それが祟ってか大学の入試にはあっさり落ち、だから正確にいうとその次にもう1層、薄くはあるが充実した予備校時代がはさまり、脇目もふらず勉強して東大志望者も含む全国模擬試験に1位になったこともあったりで、大変な意欲で大学に入ったら、1年目の最初の1週間で授業の詰らなさに茫然となり、ほとんど無気力のまま途中で1年ダブった挙句、中途退学と変らぬ内容でやっと5年目に卒業した。

悔い多きわが青春のサンドウィッチをふり返ってみると、いちばん元気ですきかったの高校時代がハムや卵、浪人時代がチーズだったのかも、と

改めて思う。高校生になっての激変は、自分の能力で、というより学校環境の変化だったに違いない。その高校には数学を教えるのがすごく上手なA先生とすごく下手なB先生がいて、私はずっとB先生だった。生物の好きなクラスメイトの代りに、気狂いじみた文学少女で本気で芥川賞を狙っている友達ができた。いや文学だけでなく、スポーツにも音楽にも美術にも伝統芸能の分野にも大人顔負けの天才たちがいた。それは選ばれた者ではなく、ガリ勉も、遊ぶ一方の連中もそれぞれに、つまり全員が天才だったのである。

中学時代はひとりひとりの本当の顔がまだよく見えない。大学では専門で束ねられてしまうから、自分には未知のジャンルで凄いや奴というのにはもはや出会うことがない。高校は大きな家族として多種多様な天才がひしめいた、そのなかのひとりである自分もだから天才だった。だから一際、鮮やかに思い出される時期なのだろう。しかし、自分が確立されているわけではない。家庭環境や先生や同級生や先輩の影響をまろに受けて、単純だが純粋に透明に燃え上がっていた時期なのだ。コワいのは、現在の私はいまも数学が苦手だし、現代詩にまたぞろ帰ろうとしている。

現代の高校生だって基本は同じはずである。映像や漫画の時代だから活字を読む若者が減ったといわれるがそれは違うと思う。古くからの表現分野もますます成熟しているはずで、多種多様な個性が一層鮮やかに見えてきたと、私なりの体験からは楽天的に感じられる。問題は火つけ役がどれほど確信犯的な態度をもって、若き天才たちに対してしているかである。

(植田 実：編集者)

# 学校で働くということ

吉田 弥栄子

## 思い出になれば良いことばかり

文化祭の間際になってアイデアや資料探しに飛んできた生徒が、なんとか付け焼き刃でその場を切り抜けて図書館の価値を見つけたり、一時流行った制服反対論者が聞きに来て、学校の制服の歴史を実際に見せて本当に必要なのか、元々生徒は押しつけられて嫌がっているのか喜んで着てるのか考えようとしたり。学園紛争のときも、所謂闘士がいろんなことを話しかけてきて真面目な面を充分見せてくれたり。図書館を使った新しい授業で先生に協力したこともあったし。大阪府高等学校SLAで他校の人と協力して『学習のための情報源—大阪府を中心として』という冊子を発行、新聞に出て結構世間で好評だったり。

今おもたら面白いことも沢山させてもろてるし、私は恵まれてたと思うわね。

## そもそものきっかけは

昭和23年、旧制の女学校と中学校が強制交流で、新制高等学校に改組されたときの設置基準に、学校図書館を置くことになってたんで、占領下やし、合併廃校なんてことにならんよう泡を喰って図書館を作ろうとしたわけ。その頃は学校図書館に関する法律は勿論ない。とにかく図書館を作らんならんから学校へ来てくれて先生にいわれて。仕事は持ちたいし、あの時代やから、女の子は職業を持たないものという古い頭の親やったし。そういう親に育てられたから、企業へ行く気はなかったしね。母校やったら親も許してくれる。

恩師からは教師の職へのお誘いもあったけど、私には教師はできないと思ひこんでたわね。暗黒と混乱時代と学生時代がすっぱり一致する私には私なりに理由があったわけ。15才とか16才とかの年齢で極限状況の中の人間を見てきたからね…。今人に話してもわかってもらいにくいことやし、話したくもないしね…。

25年間母校にいて、昭和48年に新設高校に移り、昭和56年から大阪府立図書館府史編集室へ移ったの。その後大学図書館へ、そして退職。今は府立

図書館で嘱託としてお手伝いをしながら、短大で図書館学をちょっとだけ受け持っています。

## 身分のはなし—私の場合は

ある程度図書館らしくするには人手がいるけど、定員配置はないからね。たまたまうちの学校にその年から通信教育部ができて、定員がふえたわけ。その席へ私を入れといて、図書館の仕事をさそうと校長が思いはったわけね。

学校へは正規の事務職員で入ったけど、図書館の担当で入ってない。学校事務をしていることになってるから、履歴書には図書館の経歴は載らないの。その状態がずっと続いていたの。

図書館要員獲得運動って、公立学校の公費負担の問題と関係あるんやけどね。

公費ゆうたら光熱費と給料位しか出してない時があったのよ。それくらい府県はお金無かったし。そやから本買ってお金かて集めてたしね。ある時公立学校が私費で運営してるのはおかしいって問題になったんやね。実験実習費・図書費とかね。図書館要員の給料とか。そういうものがPTAのお金食うの困るから、府費出すべしという運動が起こったわけよ。

学校図書館界としては本当は司書教諭がほしいんやけど、それはなかなか配置してくれないしね。まあゆうたら先生方の中にもとりあえず誰か図書館のことしてくれる人があればいいということで。

府としては法律いじらんでも入れられる実習助手の人を一人増やすんだったらできるというので、学校図書館側も折れたわけ。実習助手は教育職としての資格はいらんけど、教育職の給料表で給料もらってるの。

私は、初めから事務職員の席を持ってたから、実習助手の配置があった時に、うちの学校も実習助手のプラス1になるでしょ。そこのところを実績をみとめて実習助手プラス1の代りに特例として定員外事務職員プラス1とし、私はその時から公に図書館要員の行政職になったの。

一対一の人間関係では上下はなかったから、毎

日嫌な思いしてくらしてたわけとは違うけどね。でも制度としては整ってないからね。不当な労働条件などについても、耳元でささやいてくれる人はいても、問題にしてくれる人はいなかったわね。一人では自分からも言えないしね。

公共図書館へ移ったきっかけになったのは教育職云々がらみの人間関係・組合関係やったわ。教育職やなかったかて教員免許状持ってると喉まで出かけたけど、職制としては違うこと確かやから、ゆうたかてしょうがないもんね。

### 身分のはなしー私が思うに

司書教諭でも学校司書でもどっちでもいいけどね、二本立てというのは無理じゃないかと思う。

立場がきちんとしてないと仕事がやりにくいのははっきりしてるしね。経験者と非経験者とで縦の関係になるのは仕方がないけども、職種で縦の関係になるような制度は反対って、若い頃SLAに投稿したことあるのよ。

もうぼつぼつ教壇に立たない司書教諭、学校図書館やりたい司書教諭ができたっていいと思うんやけどね。先例の養護教諭も一応市民権を得てちゃんと仕事してはるし。教員でも授業せんかったら図書館のおっさんと見られる、それがいややねんね、先生は。わからんでもないけど。私のいる間はそういう意識が強かったし、状況も変わりつつあるとは言えなかったと思うわ。

今ある姿は本来的でないという意識を、少なくとも学校で働いている人みんなが持っていないと変わらへんのと違うかな。

学校図書館は学校の中で市民権を得て、職員の前の中に学校の中の一つの必要なもので、当たり前前の機関として定着させることが必要やわ。身分的にも確立していない図書館担当者がどんなに活発に内外で動いてみても泡のようなものなんと違う？

今の状況を知らない単なる悲観論であれば喜ばしいことやけど。

### 話が前後するけど

昭和21年頃母校では、ボツボツ新しい教育の試みが始まっていて、今でゆう自由研究の時間やろか、自分のしたい研究をする時間を作ってたのよ。講堂を小さく書棚で区切って、そこへ教科という

か学問分野別に本を集めてね、何々研究室と呼び、そこで新しい教育をやってたのよ。新制高等学校が発足する前やけど、図書館利用授業のはしりというか旧制高校風というか。

紆余曲折あって、曲がりなりに教室を転用して図書室を作って、アチコチ散らばっていた本を集めて、整理することから始めたんよ。女学校時代の蔵書が疎開先から戻って、爆撃で半壊してた同窓会館の三階に積んであったしね。とにかく、みんな早よ使えるようにせんならんし、追われるように仕事したわ。その内に同窓会館を図書館に修築して、生徒も使いやすいうちに、私も仕事やりやすいうちに、そりゃいろんな工夫したよ。若かったしね。

二番目に行った学校も開校の時からやったわ。図書館を利用して人間形成に取り組むということで、ゆったりした、いろんなサービスをする図書館を作ってくれ、新しい試みをしたいからということで行ったわけよ。図書館は2期工事やったから、建築現場にヘルメットかぶって出かけてはあやこやと注文出すことから始めたのよ。

### まずは校種間の連携を

学校図書館の特色って、まずサービスの対象が限られてること。授業とか、その他諸々の学校の教科外活動を含めて学校教育に奉仕するものやとってやってきたのね。

日本人は上手に図書館を使いこなす訓練ができてない。図書館ゆうたら、ただ机と椅子を借りるとこやと思ってる人がいまでも相当数いるのんとかがうかな。反対に、よう利用する人は電話かけたらなんでも教えてくれるところやとおもてるとかね。

いろんな資料を図書館員の援助を受けながら、自分で調べるって考える人はまだまだ少ないわね。

大学図書館にいたとき、大学生の図書館利用をみて如何に小・中・高等学校段階で図書館利用の学習が不備であるかを痛感したの。公共図書館と学校図書館の連携もさることながら、先ず各校種間での役割分担とか連携とかが必要やと思うよ。

本当は図書館だけでなくすべての部門にいえること的那样やけどね。

(よしだ やえこ：元大阪府立高等学校司書)

# バーコード・バーコード・バーコード

## 準備は着々と

私が図書館の本に「バーコード」を貼ったのは1990年3月のことだった。A型で几帳面な私は、このバーコード貼りのために綿密な計画を立てた。

岩槻商業高校は伝統校で、その頃には本の現有冊数と登録番号に1万冊近くのひらきがあり、私はそれがすごく気になって、登録番号を付け直したいと思っていた。だから、1989年の夏に最初のパソコンが入った時点から、バーコードは本の登録番号に合わせて貼らずに、新しく番号をつけ直すことを考えていた。

当時すでに本にバーコードを貼っていた高校図書館が県内には結構あった。が、業者に頼んで貼ってもらっている学校が多く、学校内で人手を集めて自力でバーコードを貼っている学校はあまりなかった。私は運良く学生時代のアルバイトでバーコード貼りを経験していたし、人を頼むほどのお金が学校から出るわけがないので、バーコードは自分で貼ろうと決めていた。

そんな中で私の友人の学校で自力のバーコード貼りを体験していたのがとてもありがたかった。その友人からはバーコード業者、発注の仕方、バーコードの種類等、色々なことを教えてもらった。バーコードに色々な種類があることを知らなかった私は、とにかくその友人とまったく同じ仕様でバーコードを発注することにした。その友人も、うちの学校で使うことになったソフト「LIBROS」を使っていたので、「LIBROS」で使えるバーコードという条件はクリアできていたのである。

## どうせ貼るなら

私は、バーコードに校名や電話番号を入れたかった。「LIBROS」にはバーコード印字のシステムがついていたのだが、校名などが入ったバーコード印字用シールを特注で作ると、バーコードを作ってもらおうと同じくらいお金がかかるので、「LIBROS」のシステムを使って印字する気はなかった。形式はNW7、スタート・ストップはaを使い、チェックデジットはモジュラス10とした。

木下 通子

カット 新田雅美

友人の学校はバーコードの桁数を6桁にしていたのだが、ゆくゆく雑誌やコミックにもバーコードを貼りたかったので、桁が多い方が応用範囲が広がるかなと思い、友人とは桁数だけ変えて7桁にした。…それが後で悲劇を生むことになる。



バーコード屋さんにはバーコードやチェックデジットについてたくさん説明してくれたが、私はデザインのことばかり質問してしまった。校名と電話番号をいれると料金が高くなるのか、色をつけると高くなるのか…。料金は特に変わらないということなので、学校名と電話番号の他に、シンボルマークを作ることにした。図案は校庭の大銀杏と岩槻市の木であるけやきの葉を組み合わせてデザインしたものを、美術の教員に何枚も書いてもらった。どれを選ぶかは私が好みで決めていたのだが、一応図書部会で承認してもらった。そして、葉の色に合せて下地は深緑にすることにし、バーコード、バーコードの上に貼るラミネートシール、登録番号を変えるので番号だけ打ってある基本カードに貼るシールを1万5千枚発注した。

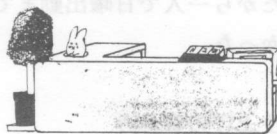




### お昼を出すからお願い！

友人の学校では登録番号とバーコードを一致させるやりかたでバーコード貼りをしていたので、「バーコードの番号と本の番号を一致させるのがすごく大変だった」と言っていた。私は「どうせ番号は新しくつけ直してしまうのだから」とそのことについてはあまり心配していなかった。だけど、たくさんの人と交代制で作業するから、きっと貼り間違えが出たり、貼り忘れが出るだろうなど覚悟はしていた。

とにかく三学期の期末テストが終わってから終業式までの約1週間の放課後を使わないとバーコードを貼る人手が集まらない。そこで重要な戦力となる図書委員には2月の定例図書委員会で作業することを伝え、お茶とお菓子を条件に、放課後一時から四時半まで一人2回以上手伝ってもらった。図書委員は75人いたのだが、不測の事態も考えて卒業生にも声をかけた。就職している子がほとんどだったので、きっと無理だろうなど思いながら、「お願い！お昼を出すから手伝いに来て！」とハガキを送った。



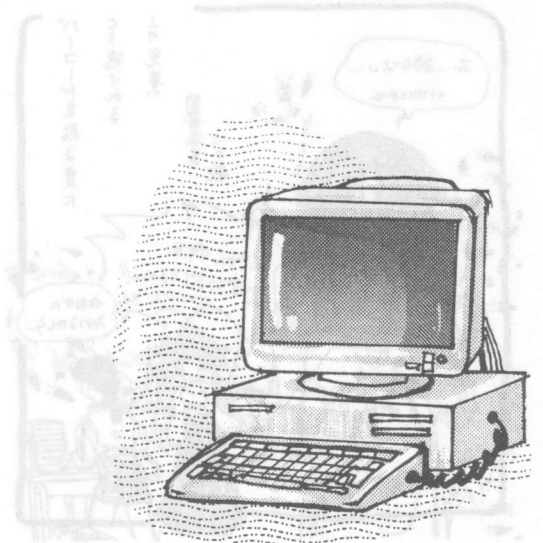
### クーラーの効かない夏の図書館でも

事前準備は夏休み中から始めていた。まず、夏の蔵書点検をかねて古い本の払い出し作業を進めた。最初、普通に蔵書点検をする。本はカードを

挟んだままで書架に立てて置く。そして、図書部の先生と一緒に書架から使えない本や古い本を減らしていった。それまで紛失以外の廃棄をしたことがなかったので本を書架から取り出すのはちょっと勇気が必要だったが、データを入力する本を少しでも少なくしたいと思っていたので、ジャンジャン本をはじめていった。「簿記」の本や「商業法規」の本は内容が変わってしまうと使えない。ファッションの本でもミニスカートのお姉さんがほほえんでいる表紙の本があったり、人間は月へ行けるかなんていう本があったり…。使えないと思う本をとりあえず書庫へしまった。

二学期に入ると、コンピュータ化のため図書館で古い本を廃棄しますと職員会議で、先生方に話した。専門的な本は教科の先生に見てほしいとお願いした。お願いしやすい先生には個人的にも声をかけておいた。

先生方は授業の空き時間を利用してけっこう図書館まで足を運んでくれた。私が書架から抜いた本で「この本は取って置いた方がいいよ」と言われ、書架に戻した本もあったし、反対に「これはもう使えないんじゃない」と書架から抜いた本もあった。廃棄する本がほしいという先生もいたので、本は書架から抜いてすぐに捨ててしまわず、書庫に分類番号順に本を並べておいた。こうして汗と若さの結晶で開架の書架に2万冊近くあった本を半分近くの1万2千冊まで減らした。



## 1ヵ月前

2月いっぱいまで本の貸出を中止し、3月は図書館を閉館した。閉館して最初にした仕事が本の督促。本が無ければバーコードは貼れないのでいつもなら「返ってこないなあ」と呑気に構えている私も「返却!返却!」と叫び回った。図書館だよりも大きく書いたし、図書館が変わるんだよというのが生徒に通じたのか、思ったよりたくさん本は返却された。

バーコードはロールで注文したので(たぶんシートより安かったと思う)、バーコードをはさみで切って、100枚ずつ番号を書いた封筒に入れていく仕事もやった。他校の資料を参考に、作業をする生徒に配るプリントを作ったり、希望日に合わせて生徒の当番日を決めたりしてあっという間に日にちが過ぎて行った。

卒業生からも続々と返事が返って来た。大学や専門学校に進学した子はもちろん、就職組もずいぶんやりくりをしてきて、毎日2人づつ、のべ10人くらい来てくれることになった。デパートに勤めていた元の委員長の子などは1週間の長期休暇をまるまるあててくれた。

## Let's start!

そしていよいよ初日3月14日。総勢20名で作業は始まった。



## 【作業の手順】 2人一組で作業

1. 通常の蔵書点検と同じように、基本カードと本を照合し、本は書架に立てたままカードを挟み込んで行く。カードケース一箱分ずつ作業する。
2. 本を書架から出して、基本カードには新しい登録番号のシールを貼り、本にはバーコードラベルを貼る。この時、基本カードにある前の登録番号が消えないように気をつけてもらった。
3. 廃棄用に書架から抜いた本のカードがケースの中に残るので、それを別の所に取り出す。
4. もう一度間違えがないかどうか確かめて、書架に戻した。

私が鬼気として「バーコード貼りがたいへん!たいへん!」と騒ぎまくっていたから、卒業生のお昼や三時のお茶菓子代は学校が気持ち良く出してくれた。

午前中はロールのバーコードを100枚ずつに分けたり、貼りまちがえたバーコードを貼り直したり、貼り終わったカードケースとまだ貼っていないのを分けたり。けっこう色々な仕事があった。

午後、授業が終わって図書委員が来てからは、本を出すついでに本棚の雑巾がけをしたり、本棚に本をしまう手伝いをしたり、自分もバーコードを貼ったり、こまねずみのように図書館内を右往左往した。五時にみんなを帰してからは、貼るのを失敗した分のバーコードを発注したり、ゴミをまとめたりした。でも次の日もあるから、六時には学校を出るようにした。すっごく気が張っていたから一人で日曜出勤までしてもそんなに疲れなかった。

## 仕上げの春休み

どうかこうにか予定通り終業式の日にはバーコード貼りは終わった。几張面な私はこれでは「よかったね」とニコニコ笑えない。それから残務処理を始めた。春休みには図書委員の有志といっしょに蔵書点検をもう

一度行った。「本とカードの番号が違っていないか」それが一番のチェックポイントだった。けっこう気がつかないで番号をずらして貼ってしまう事もあるようで、点検をしているうちにそういう例もいくつか見つかった。

とにかく3月中に作業を終わらせないと、4月から新入生を迎えられない。そう思って必死に作業したかきがあり、なんとか3月中に本を本棚に納めることができた。約1ヶ月間、のべ200人近くの間人が入れ替わり立ち替わり作業を手伝って

れた成果だった。

最後には卒業生を引き連れて(生徒を全員連れていくと破産しちゃう)焼き肉屋で死ぬほど焼き肉を食べた。「終わった!」とみんなで万歳をした。

そして

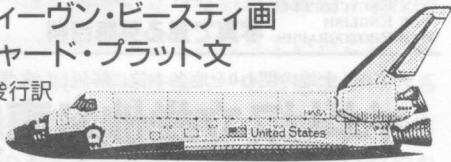
まさか2年後にもう一度バーコードを貼る事になろうとは…。

(きのした みちこ: 埼玉県立岩槻商業高校図書館)

スペースシャトルも輪切りにしちゃう/  
アツと驚く「輪切り図鑑」

## クロスセクション

スチーヴン・ブースティ画  
リチャード・プラット文  
北森俊行訳



11月5日刊行

350×265ミリ・上製カバー  
48頁・本文4色刷  
定価2300円(本体2233円)

岩波書店 〒101-02 東京都千代田区一ツ橋2-5-5  
図書館係: TEL 03-3239-9813

旅を愛する読書人におくる

内容見本同送

## 海外旅行選書

ジャン・モリス著 仙名 紀訳 定価2240円

### スペイン

エリック・ニュービー著 大窪一志訳 定価3440円

### シベリア横断鉄道の旅

イヴリン・ウォー著 由木 礼訳 定価2575円

### ガイアナとブラジルの九十二日間

E・M・フォースター著 田中昌太郎訳 定価2575円

### デヴィの丘 一消えゆくインドの面影一

図書出版社 〒162 東京都新宿区白銀町16番地  
TEL(03)3260-0011 FAX(03)3267-0458

合同出版 東京都千代田区神田神保町1-52  
☎03(3294)3506 FAX03(3294)3509

農薬の環境科学  
金澤純 初の農業環境動態の研究書。  
6000円

みんなのために環境クイズ  
佐伯平二 環境問題練習副読本  
1200円

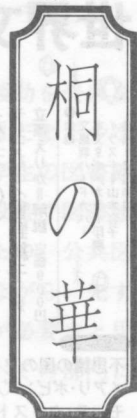
ダニが主な原因、アトピー性皮膚炎の治し方  
中山秀夫・十高岡正敏  
1300円

発がん物質事典  
泉邦彦 250種の発がん物質を詳説。  
2000円

これで食品添加物表示  
わかる(編) 食品添加物全面表示の今、全添加物、  
食材料、表示用語の全データを収録。  
2000円

全一集 定価各集一、〇〇〇円(税別)  
全三集(税込)送料三〇〇円  
全二集(税込)送料二〇〇円  
全一集(税込)送料一〇〇円  
〒102 東京都千代田区平河町  
☎03(3261)7000  
創造書房

桐朋教育研究所編  
中高校生  
作文集  
私学の名物校長  
桐朋学園の  
生江義男先生  
けつぱり先生の  
子どもたちが  
青春を楽しんで  
書きました  
桐朋女子中学校三年生  
と高校二年生は全員夏  
休みに作文を書く。自  
分と自分の周囲を見つ  
め考えたことを文章に  
する。それが二十五年  
続いた。その中から選  
ばれた珠玉の作品群。  
〒102 東京都千代田区平河町  
☎03(3261)7000



世界情勢の激変のもとで時代を見通すこの一冊！  
科学的社会主義の立場から、総合辞典として画期的に規模・内容を充実！

# 社会科学総合辞典

社会科学辞典編集委員会編

好評発売中！

定価10000円(税込)  
特別定価9500円(税込)  
特別価格切迫中！



新日本出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷  
〒151 ☎03(3423)8402

GYPSIES OF THE WORLD (写真集)

# 世界のジプシー

N・B・トマシェヴィッチ/L・ジュリッチ(共著)

相澤好則(日本語版監修)

定価15,000円

緑と青空を求めて世界各地を旅する  
流浪の民ジプシー——。

その知られざる風俗と生活の模様を綿密な実地調査によって初紹介！

- B4判変型上製カバー装/総292頁
- 本文カラー写真212点/モノクロ図版25点収録
- 11月中旬発売/予約受付中！

恒文社

〒101東京都千代田区三崎町3-10-10 ☎03(3238)0181

身近なテーマを化学の視点でとらえた

# 一億人の化学

最新刊 日本化学会 編

11 めっきとハイテク 定価1600円

12 健やかに老いる 定価1600円

13 生物毒の世界 定価1600円

既刊10巻・以下続刊

- 1 スポーツと化学 定価1600円
- 2 フレッシュを化学する 定価1400円
- 3 新ファール昆虫記 定価1600円
- 4 クルマと化学 定価1600円
- 5 リサイクルのための化学 定価1400円
- 6 ファッションと化学 定価1600円
- 7 嫌われ元素は働き者 定価1400円
- 8 驚くべき生命力の科学 定価1400円
- 9 ストレスを科学する 定価1600円
- 10 脳の働きを科学する 定価1600円

大日本図書 〒104 東京都中央区銀座1-9-10  
☎03(3561)8679 FAX03(3563)5596

# Keep

編集代表  
櫻庭信之

B5変型判

総960頁

定価18,540円

THE KENKYUSHA ENCYCLOPEDIA OF ENGLISH WITH PHOTOGRAPHS キープ 写真で見る英語百科

英文学と土地の関わりを地名本位に解説した文学案内

# イギリス文学地名事典

A Literary Companion to Great Britain & Ireland

定松 正・虎若正純 編 A5変型判 上製 560頁  
蛭川久康・松村賢一 定価4,800円

研究社 〒102 東京都千代田区富士見2-11-3  
☎03(3269)4333 注文センター 定価は税込

12月7日 世界文学の河出がすべての人に贈る

# 世界文学の玉手箱

第一回配本 (4点5冊)

赤毛のアン  
文原えりか 解説 定価900円

昆虫記 上下  
フアール・大岡信 解説 定価900円

小公子  
バレンティン・川端康成 解説 定価1000円

あしながおじさん  
ウエクスナー・谷川俊太郎 解説 定価800円

以下続刊  
不思議の国のアリス/ハックルベリィ・フィンの冒険/クオレメアリ・ポピンズ/小公女/アンクル・トムの小屋/家なき子/モンテ・クリスト伯爵 (毎月2冊配本、定価700~1000円)

東京都渋谷区千駄ヶ谷2-2-22  
電話03(3404)2201

河出書房新社

新刊

ムンクの時代 2000円4冊  
三木宮彦著  
私の歩んだ道 1750円  
中村誠太郎著

日本産カミキリムシ 検索図説  
大林延夫・佐藤正孝・小島圭三編  
日本に生息する全898種(含亜種)を初めて収録  
成虫・幼虫・蛹(さなぎ)に対応できさるわりやすい図解検索  
◆ 別種のカラー生態写真・世界のカミキリムシ100種の標本写真掲載  
B5判/上製/708頁(カラー52頁) 内容見本室 1805400円

沼田眞著  
環境教育論 人間と自然との関わり 20000円

沼田眞編  
環境教育のすすめ 20000円

日本産土壌動物検索図説 青木淳一編 15450円  
日本淡水動物プランクトン検索図説 水野寿彦・高橋永治編 15450円

東海大学出版会 〒151東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4  
TEL(03)5478-0891 FAX(03)5478-0870 総合目録呈